



東北大学

ISSN 0385-0756 Vol. 35 No. 1 2010



東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>

ー木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）ー

目次

- 電子ジャーナルの編集長が医学分館長に就任すると・・・ 1
- シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その5
金属材料研究所図書室・・・ 4
- 平成21年度附属図書館企画展
「江戸のサイエンス ～ あたたかな科学が生まれた頃 ～」
第3部 からだの科学・・・ 7
- 平成22年度図書館ガイダンス等の開催・・・ 12
- 平成22年度目録システム地域講習会
(図書コース) 開催報告・・・ 13

- 平成22年度目録システム地域講習会
(図書コース)を受講して・・・ 14
- 「東北大学生のための情報探索の基礎知識」
基本編2010、英語版2010を刊行・・・ 15
- 平成21年度特別図書購入報告・・・ 16
- 平成21年度参考図書購入報告・・・ 17
- 平成22年度附属図書館商議会商議員名簿・・・ 18
- 会 議・・・ 19
- 編集後記・・・ 20

電子ジャーナルの編集長が医学分館長に就任すると・・・

医学分館長 柴原 茂樹



平成22年4月1日付けで、柳澤輝行教授（現・附属図書館副館長）の後任として医学分館長を拝命しました。微力ながら、利用者の皆様へのサービスを念頭に、医学分館のさらなる充実に向け、最善を尽くす所存であります。なお、私は、平成20年度より、医学科長を務めていますので、特に、学生用図書

の充実と快適な学習スペース（ラーニング・コモンズ）の整備に努力してまいります。ラーニング・コモンズとは、「ネット世代の学習支援を行う図書館のサービス機能」と定義されているようです。すなわち、今後の図書館にとっては、学生がディスカッションや情報発信の場としても使える学習スペースを確保することも重要になります。

さて、一昔前（1990年代）までは、毎週土曜日には医学分館にて文献検索や新着雑誌を眺めるのが習慣でした。しかし、電子ジャーナルの普及

に伴い、医学分館を訪ねる回数は激減しました。一方、全国の図書館関係者は、「電子ジャーナルの値段高騰」に悩んでいます。そこで、雑誌のオンライン化を達成した編集長として、The Tohoku Journal of Experimental Medicine (TJEM)を紹介させて頂き、分館長の挨拶とさせていただきます。私は、平成 15 年（2003 年）より TJEM の編集長を務めています。この機会に、本学が誇るべき TJEM を再認識して頂ければ幸いです。

創刊 90 周年を迎えた TJEM とは

1911 年（明治 44 年）、東北帝国大学附属図書館が設置されました（来年 100 周年を迎えます）。次いで、1915 年（大正 4 年）に医学分館が設置され、1920 年（大正 9 年）、東北帝国大学医学部から国際誌 TJEM が創刊されました。TJEM の Founding Editors は、加藤豊治郎教授（内科学）、藤田敏彦教授（生理学）と佐武安太郎教授（生理学）の 3 先生です。なお、藤田敏彦先生と佐武安太郎先生は後に医学分館長をされました（後述）。TJEM が対象とする研究領域は、臨床医学・疫学・生化学・病理・細菌学・生理学等の医学全般であり、医学研究を総合的に推進することを目的としています。TJEM は創刊当初より、世界への情報発信を目的としていたため、掲載論文は、英、仏あるいは独語で書かれていました（注：1956 年以降、使用言語は英語に統一されました）。また、学外の投稿者にも門戸を開き、我が国の医学研究の成果を広く世界に紹介してきました。諸先輩達の献身的なご努力により、終戦直後の 1946 年を除き、TJEM は刊行され続けてきました。1981 年、TJEM の更なる発展を目的に、Tohoku University Medical Press（東北ジャーナル刊行会）が設立され、現在に至っています。おかげさまで、本年、創刊 90 周年を迎えることができました（2010 年 9 月号現在の掲載論文総数は 9,493 編）。

TJEM は、冊子体購読料、論文掲載料（著者負担）、及び日本学術振興会（科学研究費・学術定期刊行物）のご支援により毎月刊行されています（年 3 巻 12 号）。やや世俗的な指標ですが、2009 年のインパクトファクターは 1.347 であり、TJEM

論文の毎月の総ダウンロード数は 1 万件を超えています。このように、TJEM は本邦唯一の英文総合医学雑誌として世界的な評価を得ています。

TJEM をこよなく愛した歴代医学分館長

興味深いことに、歴代の医学分館長には、TJEM の編集長経験者が多くいらっしゃいます。末席の私を含めると、歴代分館長 31 人中 9 名に達します。すなわち、藤田敏彦（第 2 代分館長）、佐武安太郎（第 4 代）、本川弘一（第 10 代）、正宗一（第 11 代）、和田正男（第 14 代）、山本敏行（第 22 代）、林 典夫（第 26 代）、佐藤 洋（第 29 代）、そして柴原（第 31 代）となります。前述のように、藤田敏彦先生と佐武安太郎先生は、TJEM の Founding Editors でもあります。また、前 TJEM 編集長の佐藤 洋先生は、TJEM の国際化（A4 版への型変更、外国人編集委員の登用と website の作成など）に尽力されました。現在、TJEM の国際化はさらに進み、TJEM の編集委員会（Editorial Board）は学内委員 9 人と学外委員 28 人（外国人 18 名を含む）から構成され、投稿論文の迅速な審査が国際的に行われています。なお、前医学分館長の柳澤輝行先生（現副館長）は、学内編集委員として TJEM に貢献して頂いています。

当然ながら、医学分館には、歴史的に貴重な創刊号を含め TJEM の全巻が所蔵されています。さらに、医学分館のご支援により、毎月、世界 55 か国に TJEM 冊子体が配布されています（交換あるいは寄贈）。事実、TJEM は世界各国の主要大学・研究機関の図書館に所蔵されています。私事ながら、約 30 年前、最初の留学先である National Institutes of Health (Bethesda, MD, USA) の附属図書館で TJEM と遭遇し、感激したことを覚えています。

TJEM 刊行の意義

高度な学術誌の刊行はその国の文化水準の尺度の一つと考えられます。おかげさまで、TJEM には、世界各国の大学・研究機関等から数多くの論文が投稿されています（毎年、投稿論文の約 70% は国

外著者)。例えば、2009 年の場合、受付論文総数は 457 件であり、316 件 (69%) が国外著者からの投稿でした。国外の研究者からこれほど支持されている国内刊行雑誌は他に例がありません。投稿論文の審査は、各投稿論文にふさわしい査読者 (referees)、編集委員、及び編集長の連携に基づき、全員の奉仕活動として実施されます (平均査読日数：約 16 日；採択から公開までの日数：平均 16 日)。毎年、のべ 700 人以上の世界中の査読者に審査 (peer review) して頂いており、善意の査読者の皆様には心より感謝しています。公平、的確、かつ迅速な審査体制が、TJEM の人気を支えています。例年、論文の採択率は 30% 程度であり、かなりの難関となっています。従って、不採択となった論文の著者の皆様には、お詫びと感謝の気持ちを込め、次のご投稿をお願いすることにしています。以上のように、東北大学大学院医学系研究科は TJEM 刊行という国際的文化活動により、世界の医学研究の発展に貢献しています。

電子ジャーナルとしての TJEM

独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が構築した科学技術情報発信・流通総合システム (J-Stage) により、2004 年、TJEM は電子ジャーナルとしての新たな一歩を踏み出しました。その際、Tohoku University Medical Press (東北ジャーナル刊行会) の使命に鑑み、TJEM の掲載論文を誰でも自由に (無料で) 読むことができるように配慮致しました。すなわち、1981 年以降の掲載論文は、PubMed から J-Stage 経由で誰でも自由にアクセスできます。さらに、1920 年の創刊号を含めた全論文が電子アーカイブとして J-Stage (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/tjem/-char/ja/>) と TJEM ホームページ (<http://www.journal.med.tohoku.ac.jp/>) で公開されています。よって、1980 年以前の掲載論文については、上記電子アーカイブからダウンロード可能です。なお、TJEM の電子アーカイブは、JST のご支援により作成されました。ここにあらためて、JST のご支援に対し心より御礼申し上げます。

電子ジャーナルの使命

出版社が刊行する多くの電子ジャーナルは、善意の研究者による peer review (一種の奉仕活動) を経た論文を掲載しています。そして、当該出版社は大学等 (研究者) に電子ジャーナルを販売し、莫大な利益を得ています。このような現状への批判から、近年、無料でアクセス可能な電子ジャーナルが多数誕生しています。しかし、電子ジャーナルの長期保存と安定利用の確保が国際的な課題となっています。一方、TJEM は 1920 年以来、絶えることなく刊行され続けてきた実績があり、多くの投稿者・研究者の皆様から絶大なる信頼を得ています。前述のように、TJEM は、年間 700 名を超える世界各国の査読者 (研究者) と我々編集委員の奉仕活動により成り立っていますので、今後も、掲載論文 (研究成果) を無償で世界中の研究者に還元してまいります。

医学分館の将来

電子ジャーナル全盛の時代であっても、学生にとっての図書館の重要性に大きな違いはありません。医学分館では、かねてより「ラーニング・コモンズ」の重要性を念頭に、学生のための学習スペースの整備に力を注いできました。事実、医学分館 1 階と 3 階の一部が改修され、1 階には大型の机が配置され、利用者が様々な資料を広げて学習できるようになりました。また、3 階では、閲覧席が増設されました。今後も、医学分館職員一同、図書館機能・設備のさらなる充実、及び学部・大学院学生ならびに教職員の皆様へのサービス向上に努めてまいります。大学本部、附属図書館、及び星陵キャンパス (医学部、大学病院、歯学部、加齢医学研究所等) の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

(しばはら・しげき)

シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その5 金属材料研究所図書室

金属材料研究所 総務課図書係

1. はじめに

シリーズ第5回目は、片平キャンパスの北側に位置する金属材料研究所図書室を紹介します。片平キャンパスには分館はなく、それぞれの研究所等に図書室があります。



2階部分が図書室です



閲覧室入口

本研究所は「金研=KINKEN」と呼ばれ、親しまれています。KS鋼で有名な本多光太郎先生を初代所長として設置され、現在では金属をはじめ半導体、セラミックス、化合物、有機材料、複合材料等の広範な物質についての研究を行っています。その中での本図書室は、「本研究所創立者の本多光太郎先生が国内外から収集した文献を含

む、1800年代末から今日までの材料科学に関する幅広い領域の文献を備えています」という紹介が定着しています。

以前図書室は本多記念館（事務棟）の中にありましたが、平成5年に現2号館の新築に伴い、その2階に移りました。金研図書室は4つの部屋から構成されていますので、まずはメインルームである閲覧室から紹介していきましょう。

2. 閲覧室（部屋その1）



カウンターから見る閲覧室の一部

閲覧室は、木製の家具で統一された明るい部屋です。カウンターがあり、パソコン、新聞、参考図書、新着雑誌が揃っています。今は電子ジャーナルさえあれば足りるのかと思いきや、金研では意外と冊子体の人気も高く、「冊子体のほうが使いやすい」という声も聞きます。研究のヒントを探すときには冊子をパラパラめくって眺めるほうが合っているのかもしれない。

人気のパソコンコーナーでは、契約上の理由で金研図書室でのみ利用可能なデータベースが数点あり、院生や教員の方を中心によく利用されています。また複写室には製本機や、B0判プリンタ（管理は金研ネットワーク室が担当）があり、学会などイベントの時期になると所内の利用者で賑わい

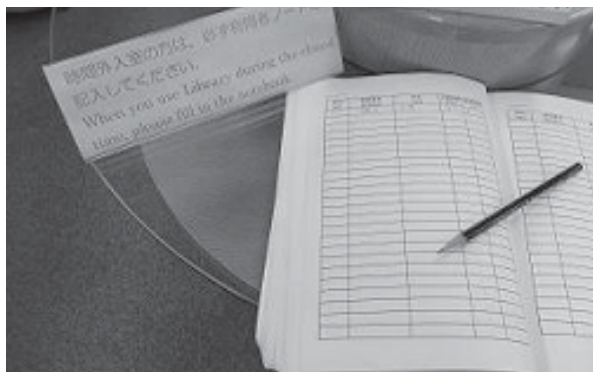


涼しげな新聞コーナー

ます。

2009 年度には、低書架や個人用デスクの導入、エアコンの修理、監視カメラの設置等、快適さと安心・安全な利用環境の整備に取り組みました。かつての中庭（残念ながら今は駐車場）に面した窓をあければ、心地よい風が感じられる部屋でもあります。春先の仙台は風が強く、カウンターを飾る折り紙の鶴がときどき吹き飛んでしまうこともあります。

夜間・休日の閉室時には所内の利用者のみ出入りできます。ID カードを使った入退館システムを備えている一方で、入室ノートへの記入もお願いしています。



夜間・休日のみですが…

3. 書庫（部屋その2）

閲覧室から廊下を挟んだ西側が書庫で、金研自慢の電動書架に、図書と製本雑誌を合わせて約 3 万 5 千冊がずらりと並んでいます。2009 年度に



電動書架と検索用 PC

基盤交換を一部行い順調に作動しています。

蔵書検索用の机は背の高いものを設置しており、立ったまま使えます。通路が狭いこともあり、椅子に座るタイプより、ちょっと立ち止まってサッと検索するのにはちょうど良いようです。

4. 閉架書庫（部屋その3）



閉架書庫

書庫の隣にある小部屋で、普段は施錠しています。内容が古くなり、利用が少なくなった図書が主な収蔵の対象ですが、時々貸出希望があり、金研のような最先端の研究機関においても、古くなった資料にもやはり価値があるのだと再認識させられます。

5. 3号館4階書庫（部屋その4）

オンラインカタログで「金研図書 3号館」と表示されればここです。利用が多くないと思われる雑誌等を中心に配置しています。閲覧室とは別棟

にあり、遠いのがやや難点です。

この書架は背が高く作られているので、地震対策として落下防止バーを設置しました。かなり敏感で、小さな地震でも直ぐ作動してしまうため、復旧には多少手間取りますが、ちゃんと働いてくれている証拠です。



3号館書庫 書架の背が高め

6. おわりに

金研図書室のすばらしいところ、それは、主な利用者である所内の学生さんや研究者の方とともに距離が近いところだと思います。互いに足を運びやすく、連絡も取りやすいので、「自分たちの図書室」だと感じてもらえているのではないのでしょうか。みなさん運営には協力的ですし、本の無断持ち出しなども滅多にありません。そうした和やかな雰囲気の中で、ひとつひとつのケースについて丁寧で良いサービスが提供できるよう、努力しています。

また、若手教員を中心に図書整備委員会が組織されており、図書室が金研の研究活動に役立つためには、蔵書構成や設備環境、サービス内容がどうあったら良いか、私たち職員と一緒に考えていただいています。おかげで図書室はいつも快適で、便利な場所になっています。金研以外の方もどうぞご利用ください。



人気のイス コロコロ動きます



季節ごとにディスプレイします



かぼちゃ

< 連絡先 >

- ◆ 住所 〒980-8577
仙台市青葉区片平2-1-1
- ◆ 電話 022-215-2188
- ◆ ホームページ
<http://library.imr.tohoku.ac.jp/>

附属図書館企画展「江戸のサイエンス～あたたかな科学が生まれた頃～」

第3部 からだの科学

医学分館 木戸浦 豊和

はじめに

明和8年（1771）春、江戸小塚原の刑場に赴いた杉田玄白（1733～1817）は、1冊の書物を携えていました。ドイツ人医師が著した解剖学書のオランダ語訳、通称「ターヘル・アナトミア」です。死刑囚の遺体の解剖を、その書物と照らし合わせながら実見した玄白は、解剖図の精緻正確なことに驚嘆します。そして玄白は帰路、ともに解剖に立ち会った前野良沢（1723～1803）や中川淳庵（1739～1786）などと語り合ったのでした。

今日の実見、一々驚き入る。且つ、これまで心付かざるは恥すべきことなり。いやしも医の業をもって互いに主君に仕える身にして、その術の基本とすべき吾人の形体の真形を知らず。今まで一日一日とこの業を勤め来たりしは面目もなき次第なり。（『蘭学事始』）

そして玄白はその翌日から『ターヘル・アナトミア』の翻訳を開始するのです。

翻訳は玄白、良沢を中心に、淳庵や桂川甫周（1751～1809）らの協力を得て進められました。しかし訳読は困難の連続でした。最も良くオランダ語を解していたはずの良沢ですら実際に理解のできる語彙はわずかに数百語程度であり、玄白にいたってはアルファベットさえ習ったことがなかったといえます。日が暮れるまで考えつめても、一行も解し得ないようなありさまでした。

苦心の末、『ターヘル・アナトミア』が『解体新書』として刊行されたのは、死刑囚の解剖の日からすでに4年が経過した、安永3年（1774）のことでした。その間、玄白らの努力を支えたのは、「医療の役に立たせたい」という、その一心ではなか

ったのでしょうか。

平成21年度東北大学附属図書館企画展「江戸のサイエンス～あたたかな科学が生まれた頃～」第1部・第2部に引き続き、第3部「からだの科学」の展示に基づき、医学の発展に傾注した先達の「あたたかな」心から生まれ出た成果をご紹介します。

1. 『解体新書』とその時代

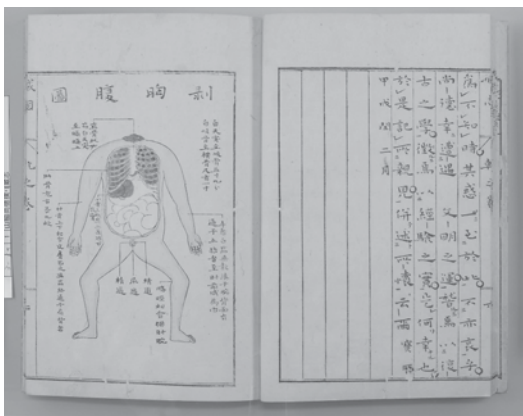
江戸時代までの日本では外科は軽視されており、医学の本道は伝統的な漢方にあると見なされていました。外科とは、身体の「外」に着目して治療を進めるという意味を持つだけではなく、「内」科と比較して、価値的な判断をも含んだ医学の「外」縁的なものとして捉えられる傾向が強くあったのです。

しかし一方では、西洋医学書の精巧な解剖図を見て、伝統的な医学書に描かれてきた単純な模造図に疑問を持つ人々も現れました。そして、各地で実地に人体解剖が行われるようになり、その解剖の記録が、例えば山脇東洋『蔵志』（1754）や河川信任『解屍編』（1772）として刊行されるようになると、西洋外科学の正確さが確認されていきます。

このような時代の中で出版されたのが『解体新書』でした。『解体新書』は、西洋の外科学書を翻訳し、世の中に公開する機が熟しつつあった時代に刊行された、まさに時宜に適った試みだったと言えるでしょう。そして、『解体新書』によって生み出された「神経」「頭蓋骨」「軟骨」といった言葉や、「動脈」「筋」といった『解体新書』の中で新しい意味を盛られて使われるようになった

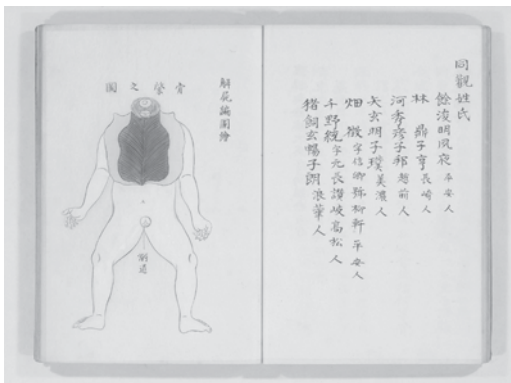
言葉は、前野良沢や杉田玄白の苦心の成果によって、現在では日常的な言葉として定着することになったのです。

『解体新書』は日本における西洋医学紹介の濫觴^{らんしょう}となるばかりではなく、医学の領域に止まらず広く西洋の科学に目を向けさせるきっかけともなり、蘭学・洋学発展の礎を築く書物となったのです。



山脇東洋撰・山脇東門校『蔵志』明和5年（1768）

宝暦4年（1754）に京都郊外で行われた死刑囚の解剖の記録。日本ではじめての実証的な解剖図で、新しい医学研究の道を開いた。



河川信任『解屍編』江戸時代

明和7年（1770）に京都郊外で行われた解剖の記録。『蔵志』に次いで日本で2番目の解剖図となり、より正確な内容となっている。

2. アダムとイヴ？ー『解体新書』の扉の男女

『解体新書』の挿画を描いたのは秋田佐竹藩士の小田野直武（1749～1780）です。直武は平賀源内に画才を認められて西洋絵画の表現技法を学び、後に佐竹曙山とともに「秋田蘭画」と呼ばれることになる江戸後期の洋風画派を打ち立てました。

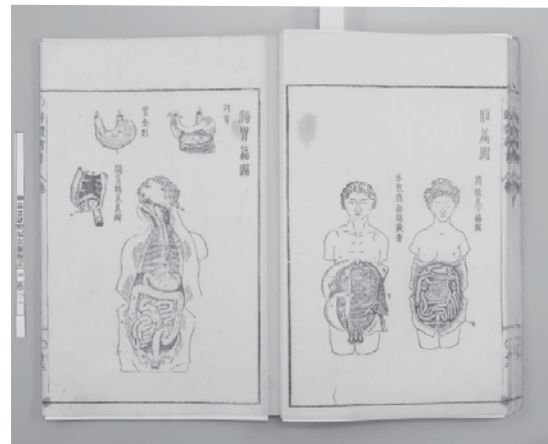
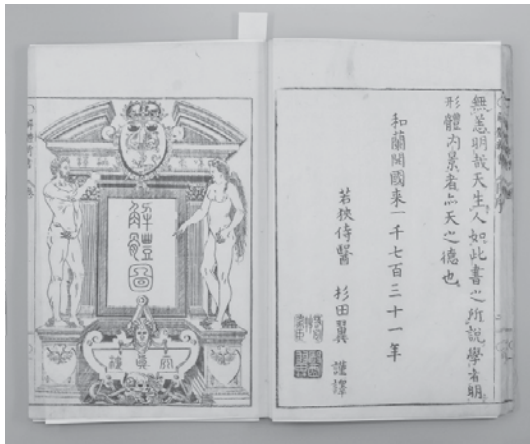
直武が『解体新書』の挿画を担当することとなったのは、直武の写実的で細密な表現力を高く評価していた源内が、杉田玄白に推挙したためだと言われています。

ところで、直武が描いた『解体新書』の扉絵。この扉絵は、実は、いわゆる『ターヘル・アナトミア』の原書とは関係なく、直武が別の解剖書を参考にして描き出したものだと言われています。

大理石でできたポーチのような建て物の前で向かい合う男女。男性は右手に林檎を持ち、それを女性に掲げ、左手には無花果の葉のようなものを持っています。

直武のこの扉絵と彼が参照した挿し絵とは微妙に異なっている点もあるようですが、もちろんこの男女は『聖書』のアダムとイヴを描いたものでしょう。そして、『聖書』と言えば、キリスト教は江戸時代において厳しく禁止されていました。どうしてその『聖書』の中のアダムとイヴが堂々と『解体新書』の扉絵として掲載されることが可能だったのでしょうか？

それは、恐らくは、玄白も直武もそして検閲係の江戸幕府の役人も、この男女が『聖書』の中でもっとも重要な役割を果たしたあの二人であることに気づかなかったからではないかと言われている。



杉田玄白訳・桂川甫周訳『解体新書』安永3年（1774）

日本ではじめてとなる西洋医学の翻訳書。ドイツ人医師クルムスの解剖学書（いわゆる「ターヘル・アナトミア」）をライデンの外科医ディクテンがオランダ語に翻訳したものを、さらに杉田玄白らが漢文で翻訳したもの。『解体新書』翻訳にあたっての苦心談は、玄白の『蘭学事始』で詳しく語られている。挿し絵は平賀源内に洋画を学んだ秋田藩士の小田野直武。複数の西洋医学書の銅板図を参考に描いた。直武は日本画と西洋画とを融合した「秋田蘭画」を創始した。

3. 学問に捧げた孤高の生涯・前野良沢

前野良沢は、享保8年（1723）生まれです。幼くして孤児となった良沢は、40歳を超えてからオランダ語を学びはじめました。明和6年（1769）には、オランダ語学習のために長崎まで出かけ、青木昆陽に学んでいます。良沢はこの長崎訪問の際、『ターヘル・アナトミア』を入手しました。

『ターヘル・アナトミア』の翻訳は、良沢が主導的な役割を果たしましたが、良沢は『解体新書』に自分の名前を出すことを拒否しました。なぜ良沢は『解体新書』に名前を出すことを拒んだのでしょうか？ それは現在に至るまで謎のままであるようです。

人付き合いを好まず、交際嫌いであった良沢は、『解体新書』の刊行後は、翻訳をともにした同志とも疎遠となり、オランダ語を中心とした西洋の諸言語の研究と翻訳に専念し、学問に身を捧げた生涯を送ったようです。良沢は多くの語学書の執筆のほか、ヨーロッパやロシアの諸事項を解説した啓蒙書などを著し、享和3年（1803）、80歳で亡くなりました。

4. 日本医学の祖・杉田玄白

杉田玄白は、享保18年（1733）、若狭国（現・福井県）の小浜藩医の子として生まれました。前野良沢らの同志とともに、オランダ医書『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、安永3年（1774）、『解体新書』として出版しました。

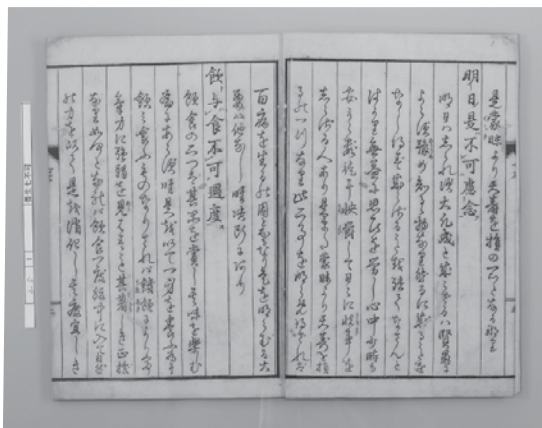
『解体新書』の刊行によって本格的な西洋医学がはじめて日本に紹介され、日本の医学や学問の発展に大きく貢献することになります。翻訳にあたっての苦労話などは、玄白の追想録『蘭学事始』のなかで詳しく紹介されています。

玄白は『解体新書』刊行以後、数多くの患者を往診する一方で、医学者として、あるいは当代一流の知識人として、多くの著作を執筆しました。また、私塾「天真堂」を開き、後進の育成にも力を注ぎ、文化14年（1817）に85歳で死去しました。



杉田玄白『蘭学事始』明治2年（1870）

文化12年（1815）頃に成立した、杉田玄白最晩年の回想録。主に蘭学の創始から隆盛の経緯をまとめたもの。『解体新書』翻訳の苦心も述べられる。杉田家に写本として伝わっていたのを、明治になり福沢諭吉が『蘭学事始』と名付け刊行した。



杉田玄白『養生七不可』享和元年（1801）

杉田玄白の養生訓。図版は「明日是不可慮念」「飲と食不可過度」など、明日のことを憂慮することや食べ過ぎ飲みすぎを戒める箇所である。

5. 蘭学の大成者・大槻玄沢

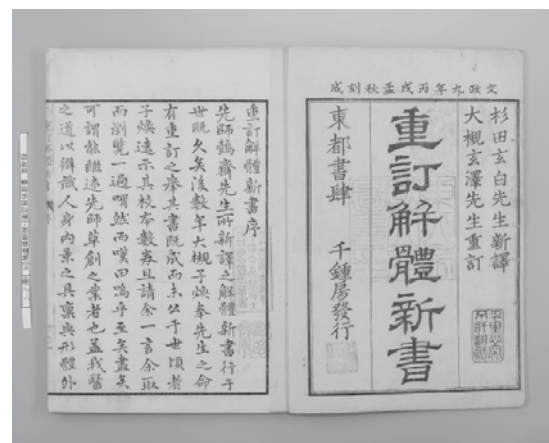
大槻玄沢は、宝暦7年（1757）、一関藩（現・岩手県）に生まれました。はじめ建部清庵（1712～1782）に医学を学び、20歳頃には江戸に出て、杉田玄白と前野良沢に蘭学を学びました。天明5年（1785）には、長崎へ遊学し、オランダ語を学んでいます。そして、天明6年には江戸詰め仙台藩医となり、私塾「芝蘭堂」を開きました。

玄沢の蘭学を学ぶ能力は当時において抜群に優

れていたようで、玄沢の師である杉田玄白は、玄沢を評して、「オランダの自然科学を学ぶには生まれつきの才のある人物」（『蘭学事始』）と述べています。玄沢が、天明8年（1788）に刊行した『蘭学階梯』は、オランダ語及び蘭学学習の基本を述べたものとして、蘭学を志す者に大きな影響を与えました。また玄沢は、玄白から『解体新書』の改訂をまかせられ、文政9年（1826）に『重訂解体新書』を出版します。

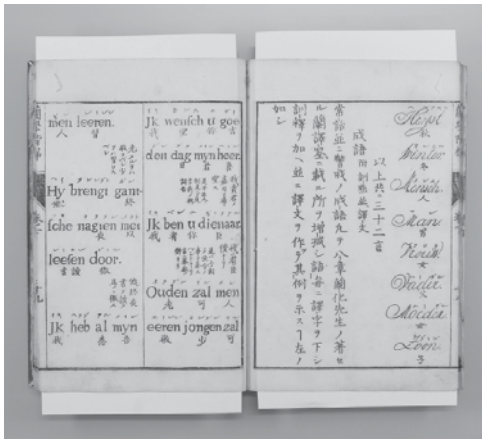
なお、玄沢の子孫からは、漢学者の大槻盤溪、国語学者の大槻文彦など著名な学者が輩出しており、大槻家は三大続いた学問の名家として知られています。

玄沢は、文政10年（1827）、71歳で亡くなりました。



杉田玄白訳・大槻玄沢訂『重訂解体新書』文政9年（1826）

大槻玄沢が、杉田玄白の命により『解体新書』を改訳し、註の部分新たに訳出したもの。附図は『解体新書』の木版画を、中伊三郎が銅板によって改作した。



大槻玄沢撰『蘭学階梯』天明8年（1788）

玄沢による蘭学入門書。江戸に芝蘭堂を開塾して間もない頃の著述で、蘭学の始まりと発展、オランダ語の学習方法などを記す。蘭学を学ぶ者に大きな影響を与えた。

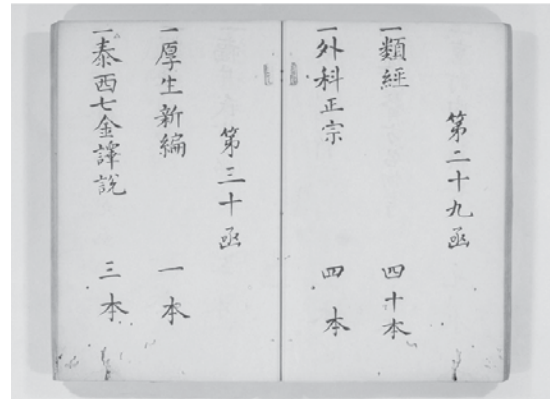
6. 江戸時代最大の翻訳事業『厚生新編』

文化8年（1811）から、幕府の天文方に設置された蛮書和解御用において、江戸時代最大の翻訳事業とも呼ばれる『厚生新編』の翻訳が開始されました。『厚生新編』は、フランスのショメール（M. Noel Chomei）が編纂した百科事典『日曜百科事典』（原本の刊行は1709年）のオランダ語訳版の翻訳を目指したものであり、そこには、大槻玄沢をはじめ、宇田川玄真、宇田川榕庵、箕作阮甫、小関三英ら、当時の蘭学・洋学の碩学たちが多く携わりました。

『厚生新編』は、西洋の知識を導入することにより人々の厚生利用に益することを目指しており、中でも植物学、医学の分野が詳しく取り上げられている点に特徴があります。また、単なる原書の翻訳をすることに止まらず、独自の調査研究にも及んでおり、翻訳者たちの熱意の現れをうか

がうことができます。

この幕府を挙げた翻訳事業は、弘化2年（1845）頃までは続けられましたが、遂に完成することなく、江戸時代には未刊行のまま終わりました。

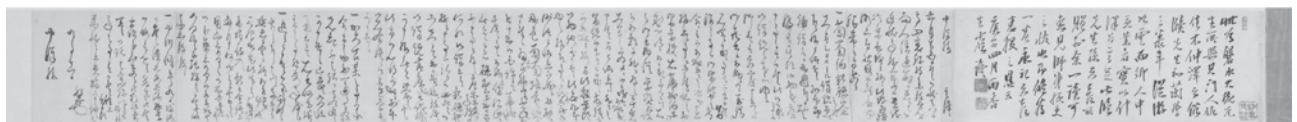


『仙台藩医学校目録』江戸時代

仙台藩の医学校は、渡辺道可の建議により文化12年（1815）に創設され、日本で最初の西洋医学科として設置された。図版の『厚生新編』は幕府の天文方としてショメールの『百科事典』の翻訳に当たっていた大槻玄沢が密かに仙台藩医学校に送ったもの。

おわりに

日本医学の祖・杉田玄白のもとからは大槻玄沢（1757～1827）や杉田伯元（1763～1833）、宇田川玄真（1769～1834）ら、当時の著名な医学者・蘭学者たちが育っていきました。さらに玄白を師とする洋学の系譜は、緒方洪庵（1810～1863）、福沢諭吉（1834～1901）らへと続き、幕末から明治の新時代へと確かに受け継がれていくのです。



『大槻玄沢書簡』安永9年（1780）

大槻玄沢が、弟子の仙台藩医学校助教・佐々木中沢に宛てた書簡。玄沢らが翻訳した『厚生新編』にしたがって葡萄酒の醸造を計画したとの中沢からの報告に対し、玄沢が助言を与える内容となっている。

平成 22 年度図書館ガイダンス等の開催

情報サービス課 参考調査係

図書館ガイダンスは、川内地区の学部・研究科（文学部、教育学部、法学部、経済学部、法学研究科、国際文化研究科、教育情報学教育部）が実施する新入生オリエンテーションに附属図書館情報サービス課職員 2 名が出席し、図書館概要の説明を 10 分で行うもので、4 月 7 日、8 日及び 14 日に 7 会場で 900 人を対象として行われました。各会場では、新入生全員に『東北大学附属図書館本館 利用案内 2010』『情報探索の基礎知識 基本編 2010』『東北大学図書館 MAP』を配付し、留学生には『Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University 2010: Natural Science』も併せて配付しました。

図書館オリエンテーションは、4 月 6 日、7 日、8 日、9 日、12 日、13 日、14 日の 7 日間に本館で 23 回行い、昨年の 2 倍を超える 658 名の参加者がありました。内容は、図書館概要説明（10 分）と図書館ツアー（20 分）で、図書館ツアーでは書庫内見学も行いました。

また、新入生を中心とした初心者向けの講習会「情報探索のススメ:30 分で分かる入門編」を 4 月から本館で毎月開催しています。

内容は、文献検索の基本である図書の探し方、雑誌論文の探し方、新聞記事の探し方、オンライン百科事典の探し方、データベースの使い方で、4 月から 6 月までに 60 名の参加がありました。

なお、本館では「情報探索のススメ：実習しながら学ぶ初～中級編」「映像で学ぶレポート・論文の書き方入門」「留学生のための文献検索講習会」、教員からの依頼に応じた内容で行う「オーダーメイド講習会」を随時開催していますので、皆様の参加をお待ちしています。



図書館概要の説明

平成 22 年度目録システム地域講習会（図書コース） 開催報告

情報管理課 図書情報係

平成 22 年 6 月 9 日から 11 日までの 3 日間、附属図書館において国立情報学研究所との共催で「目録システム地域講習会（図書コース）」を開催しました。この講習会は、目録業務担当の図書館職員が、日常業務において共通理解しておくべき国立情報学研究所の NACSIS-CAT 総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方（入力基準）の修得を目的とするもので、東北地区の大学から（国立 8 名、公立 4 名、私立 4 名）16 名が受講しました。

受講者は、義務付けられているセルフラーニング教材による事前学習と修得テスト合格を全員クリアし、講習会に臨みました。

講習会は解説と演習で進められます。セルフラーニングや解説では理解したつもりでも、演習してみると出来上がった書誌に、その理解が反映されないこともあります。受講生は、知識だけではなく実践を伴ってはじめて定着する技能の一端を、体験できたと思います。今年度は目録経験の浅い受講者が多かったためか、目録規則やコーディングマニュアルを積極的に参照する姿が目につきました。目録作業で不明点が発生した場合は、大元に戻って考える、という習慣を日常業務でも続けてほしいと思います。

最終日の自由演習の時間にはグループ演習を取り入れました。3 日間で得た知識を総動員し、4 名ずつのグループで相談しながらひとつの書誌を完成させるというものです。問題は初心者向きにはかなり難しい課題だったかもしれません。テキストにはない、しかし実際はよくあるパターンの書誌修正にどのグループも積極的に取り組んでいました。

講師は前年度に引き続き、国立情報学研究所から派遣された NPO 職員の高野氏を迎えました。

高野氏の長年の経験を基にされた明快な講義は、受講生にとってわかりやすいだけでなく、講師・講師補助者のモデルとして参考になりました。

また、初めての試みとして東北地区の国立大学法人 3 大学から 5 名の講師・補助者を派遣していただきました。担当された方々からは、教えることで自分自身の目録知識の再確認をするよい機会であったこと、目録担当者同士の情報交換になったこと等の感想がありました。目録担当者の中堅研修的な意味合いもあり、次年度以降も東北地区各大学からの講師派遣を継続していきたいと思います。

Amazon や Google Book に代表されるような図書館以外から図書についての情報が多く提供されています。それでも図書館が目録所蔵情報を提供し続けるのは、図書館データだけが持つ質があるからだと考えています。その質を担保しているのは、目録作成担当者ひとりひとりの高い目的意識と技能であり、そのため目録作成担当者の育成に資する講習会を開催していきたいと考えています。

目録システム講習会

http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/product/cat/cat_curriculum_thtml



平成 22 年度目録システム地域講習会（図書コース）を受講して

工学分館整理・運用係 中島 大

平成 22 年 6 月 9 日から 11 日までの 3 日間、国立情報学研究所と東北大学附属図書館の共催により開催された目録システム地域講習会（図書コース）を受講する機会を得ました。

私は 4 月から新規採用となり、事務職、技術職の新規採用者と合同の研修を終えた後に現在の職場である工学分館に赴き、目録担当である旨を伝えられました。そして、挨拶もそこそこに目録講習会の受講を薦められ、目録が何たるかを知らない私は救いを求めるように本講習会への申し込み手続きをしていただきました。講習会を終えた今、未だ戸惑うことも多いのですが、講習会を契機に何とか図書館職員としてスタートすることができたと感じています。

目録システム地域講習会では受講に先立ち、セルフラーニングで基本的な事項を学習します。私は講習会受講前にも諸先輩方のサポートを得ながら業務を理解していく機会がありましたが、並行してセルフラーニング教材を用いて学習することで理解を深めることができました。普段の業務をこなしているだけでは分からない部分に加えて、検索の方法など実技的な内容を含んだものもセルフラーニングには含まれています。したがって、セルフラーニングにより講習会受講以前に普段の業務で確認しながら学習することも可能となり、講習会の内容もスムーズに理解できたように思います。

講習会では、演習が大変役に立ちました。作業をしてみるということはセルフラーニングでは限界がありますが、講習会では受講者 1 人につき 1 台のパソコンが用意されています。さらに、講師

1 名に加えて補助者の方が常に数名いるため、分からないことがあればすぐに質問できる環境にありました。

実際に端末を使用して作業をしてみると、規則に則った正確な作業を行うことが予想していた以上に難しく感じました。とりわけ、書誌作成は判断に迷う箇所が多く、補助者の方から助けを得ながらなんとか完成を見るという状況でした。さらに、作業が終わったと思っても後からチェックをしてもらうと記入漏れや誤入力箇所が散見され、講習会終了まで完璧な書誌作成を行うことはほとんど出来ませんでした。

多くの方の協力を得ながら講習会を何とか修了することができましたが、正直なところ今後の業務への不安は尽きません。3 日間という限られた時間の中で講師の方々が全ての目録業務について伝えることは不可能でしょうし、受講者である自分としても講習会の内容を全て理解し、実践に活かすレベルには未だいたっていません。共同目録の質・量を維持、発展させ、図書館サービスの質を向上させるために、講習会の内容を受けてこれまでと同様に多くの方の協力を得ながら自分自身の経験を蓄積させていきたいと思います。

最後になりましたが、講習会の準備をくださった方々、並びに講師、補助に当たっていただいた方に感謝申し上げます。中には講師、補助のために県外の大学からお越しくくださった方も多数いらっしゃり、受講する側としては心強い限りでした。本当にありがとうございました。

（なかじま・だい）

『東北大学生のための情報探索の基礎知識』 基本編 2010、英語版 2010 を刊行

情報サービス課 参考調査係

『東北大学生のための情報探索の基礎知識』シリーズは、東北大学の学生がレポートや論文を作成するときに必要な、文献や情報を調べるための知識や技能を習得することを目的として、附属図書館が作成している冊子です。

平成 22 年 3 月に「基本編」の 2010 年版を刊行し、4 月に新入生に配付しました。「基本編」2010 年版は、最初に刊行された 2003 年版の第 7 版に当たります。2010 年版は、2009 年版の内容や構成をほぼ踏襲していますが、新しく導入されたツールを追加するとともに、従来のツールについても解説や図表の補訂・見直しを行いました。

また、英語版『Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University 2010: Natural Science』も平成 22 年 3 月に刊行し、新入の留学生に配付しました。

英語版は、最初に刊行された 2007 年版の第 4 版に当たり、「基本編」と同様に 2009 年版を改訂したものです。「基本編」「英語版」は、附属図書館本館・分館・図書室で配付しています。

さらに附属図書館のウェブサイト

(<http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/2010/>) で PDF 版も公開しています。

入手についてのお問い合わせは、東北大学附属図書館情報サービス課参考調査係までお願いします。(desk@library.tohoku.ac.jp)

是非『東北大学生のための情報探索の基礎知識』基本編 2010、英語版 2010 をご活用ください。



平成21年度特別図書購入報告

特別図書購入費によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

(情報管理課)

番号	資 料 名	内 容	出版形態
1	ストレス百科事典	ストレスに関係するあらゆるトピックを、その派生的影響も合わせて収録している。前版に30%の論文を加筆、更新し、テロ、暴動とストレスの関係等、2000年の前版出版以降に顕著になった研究を100余加え、動物研究、不安うつ病、薬物依存、厄災、心理学的治療法にも言及している。	図書
2	クリスティアン・ヴォルフ、ドイツ語著作集セット	18世紀ドイツ啓蒙主義思想に大きな影響を及ぼしたクリスティアン・ヴォルフのドイツ語著作集。	図書
3	国家図書館蔵敦煌遺書 1-20	中国国家図書館に所蔵される全敦煌遺書の写真版。1910年に敦煌より移管されたコレクションのほか、新中国成立以降に収集された諸巻子も含む、初の網羅的影印出版である。	図書
4	Oxford Medieval Texts	Oxford Medieval TextsはOxford University Press社が1960年代より刊行を続けている定評ある中世史料叢書である。	図書
5	Continuum Library of Educational Thought (教育思想叢書)	古代の哲学者から現代の教育思想家までを網羅した叢書。各哲学者・思想家に関する必須のガイドである。	図書
6	Oxford International Encyclopedia of Legal History. 6 vols. (オックスフォード版法制史国際百科事典)	本書は、古代から現代までの世界の法制史のあらゆる側面に関する約1,000の論文を収録する、包括的な国際的、学際的レファレンス・ワークである。	図書
7	伝記叢書 第17回配本 憲政	本叢書は明治以降に刊行された数多くの伝記の中から、近代日本の凡ゆる分野に生きた先賢について、有名無名を問うことなく、もっぱらその内容と資料性などを考慮し、今後の研究基本図書となるよう複製刊行したものである。	図書
8	伝記叢書 第25回配本 法曹界		図書
9	伝記叢書 第26回配本 法曹界		図書
10	ボッスルスウェイト『名誉革命以降の国家歳入の歴史』	イギリス名誉革命以降約90年間の国家歳入の歴史を跡づける資料。	図書
11	ギブス商会営業資料集成 1744-1953年 (Reel Nos. 196-203)	19世紀から20世紀にかけての代表的なマーチャント・バンクの事業活動の内実を知る上で欠くことのできない貴重な歴史的資料。	マイクロフィルム
12	ゲラート『リトグラフに見るマルクス“資本論”』限定版	ハンガリー移民で、社会主義を信奉し、第一次大戦の際には反戦運動にも携わったゲラートのリトグラフ作品。	図書
13	English Language Teaching. 6vols. (Major Themes in Education Series.) (英語教育)	Major Themes in Education シリーズの最新集。世界各国における英語教育の実践の多様性を集大成したもの。	図書
14	Simon Schama's American Future. 4 vols. DVD-BBC	オバマ新大統領のもとで、アメリカはどのような方向に向っていくのか。建国以来、アメリカの抱える4つの問題を描いたDVDシリーズ。	DVD
15	Tourism and Cultural Change Collection. 15vols. - Channel Views. 2008. (叢書 ツーリズムと文化変容)	ツーリズムと文化の、複雑かつ常に変容する関係に注目し、最新の研究成果を紹介する叢書。	図書
16	現代史資料1-45, 別巻, 続・現代史資料1-12	日本現代史の基礎的な資料を収録した「現代史資料」のオンライン版。	オンライン

平成 2 1 年度参考図書購入報告

参考図書費により平成21年度に購入し、本館に配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。
(情報管理課)

◆ 主な継続受入資料 ◆

Book page 本の年鑑 2009 1-2	ブリタニカ国際年鑑 2009年版
会社四季報：2009年3,4集	読売年鑑 2010
会社四季報：2010年1,2集	読売年鑑 2010 別冊
会社職員録 全上場会社版 2010 上,下巻,付録	理科年表 第83冊 (2010)
会社職員録 非上場会社版 2009 上,下巻,付録	六法全書 平成22年版 1,2
官報総索引 2008	Althochdeutsches Wörterbuch -- Akademie Bd.5 Lfg.15
近代雑誌目次文庫 社会学 第19-21巻	American reference books annual 40 (2009)
現代用語の基礎知識 2010	Britannica book of the year 2009
国会便覧 2009/10 125,126	Dizionario biografico degli italiani. -- Istituto della
雑誌新聞総かたろぐ2009年版	Enciclopedia italiana 72
出版年鑑 2009 1-2	The Europa World Year Book 2009 vol.1-2
宗教年鑑 平成20年版	The Europa world of learning 60th ed. 2010 1-2
世界国勢図会 2009/10	The International Who's who 2010
全国学校総覧 2010	McGraw-Hill Yearbook of Science & Technology 2010
大学ランキング 2010年版	The Statesman's year-book 2010
台湾総督府文書目録 第26,27巻	Wer ist wer? : Das deutsche who's who Bd.48 2009/10
中国年鑑 2009	Whitaker's Almanack 142th ed. 2010
図書館年鑑 2009	Who was who in America : with world motables
日本経済新聞 CD-ROM版 2008年版	2008-2009 Vol.20
日本国勢図会 第66版 2009/10	Who's who in france 2010 Vol.41
美術年鑑 平成22年版	The world almanac and book of facts 2010

その他の主な受入資料

ゼンリンの住宅地図(宮城県) 2009-2010	十二支(えと)のことわざ事典
書誌年鑑 2009	ノーベル賞受賞者業績事典
「大学教育」関係図書目録	金融工学ハンドブック
スポーツの本全情報	日本古典博物事典
最新文学賞事典	日常生活の法律全集
平成災害史事典	社会福祉用語辞典
政治・行政問題の本全情報	イラスト・図説でよくわかる江戸の用語辞典
日本国際交流史事典	日本語ジェンダー辞典
環境問題文献目録	沖縄民俗辞典
大学ランキング	行政カタカナ用語辞典
世界の物語・お話絵本登場人物索引	水の総合辞典
日本経済史事典	江戸幕府大事典
事典日本の観光資源	「学び」の認知科学事典
世界神話大図鑑	図録古文書入門事典
世界美術史アトラス	法律英語用語辞典
文学作品書き出し事典	現代人口辞典
全国学力調査: 日米比較研究	連歌辞典
ジャーナリズム用語事典	日本幻想作家事典
国宝・重要文化財よみかた辞典	Black's law dictionary

平成 22 年度附属図書館商議会商議員名簿

平成 22 年 4 月 1 日現在

所 属	氏 名	任 期	備 考
図書館長	野家 啓一	職指定 (H22. 4. 1 ～ H24. 3. 31)	
図書館副館長	柳澤 輝行	〃 (H21. 10. 1 ～ H23. 9. 30)	
医学分館長	柴原 茂樹	〃 (H22. 4. 1 ～ H24. 3. 31)	
北青葉山分館長	佐藤 春夫	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
工学分館長	吉野 博	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
農学分館長	山下 まり	〃 (H21. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	
サイバーサイエンスセン	小林 広明	〃 (H20. 4. 1 ～ H24. 3. 31)	再任
副学長 (総務担当)	北村 幸久	〃 (H20. 4. 1 ～ H23. 3. 31)	再任
文学研究科教授	後藤 斉	22. 4. 1 ～ 23. 3. 31	*前任者の残任期間
教育学研究科教授	生田久美子	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
法学研究科教授	大内 孝	22. 4. 1 ～ 24. 3. 31	
経済学研究科教授	柘植 徳雄	22. 4. 1 ～ 23. 3. 31	*前任者の残任期間
理学研究科教授	藤巻 宏和	21. 4. 1 ～ 24. 3. 31	再任
医学系研究科教授	松原 洋一	22. 4. 1 ～ 24. 3. 31	
歯学研究科教授	山本 照子	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
薬学研究科教授	大島 吉輝	20. 4. 1 ～ 24. 3. 31	再任
工学研究科教授	山田 博仁	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
農学研究科教授	加藤 和雄	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
国際文化研究科教授	石川 秀巳	22. 4. 1 ～ 23. 3. 31	*前任者の残任期間
情報科学研究科教授	福地 肇	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
生命科学研究科教授	東谷 篤志	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
環境科学研究科教授	星野 仁	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
医工学研究科教授	田中 真美	22. 4. 1 ～ 24. 3. 31	
教育情報学研究部教授	村木 英治	14. 4. 1 ～ 24. 3. 31	再任
金属材料研究所教授	米永 一郎	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
加齢医学研究所教授	小椋 利彦	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
流体科学研究所教授	中野 政身	20. 4. 1 ～ 24. 3. 31	再任
電気通信研究所教授	外山 芳人	20. 4. 1 ～ 24. 3. 31	再任
多元物質科学研究所教授	佐藤 俊一	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
東北バリア研究センター教授	平川 新	22. 4. 1 ～ 24. 3. 31	
高等教育開発推進センター教授	羽田 貴史	21. 4. 1 ～ 23. 3. 31	
教育情報基盤センター教授	静谷 啓樹	21. 7. 1 ～ 23. 3. 31	
原子分子材料科学高等研究機構准教授	着本 享	22. 4. 1 ～	オブザーバー出席

会

22. 4. 21 平成22年度第1回附属図書館運営会議

■協議事項

1. 平成22年度附属図書館会議等年間計画について
2. 運営会議の当面の検討事項（案）について

■報告事項

1. 平成22年度商議員について
2. 平成22年度第1回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会（合同会議）について
3. 井上プラン2007(2010年度改訂版)について
4. 平成22年度全学的基盤経費について
5. 平成22年度総長裁量経費要求について
6. 平成23年度概算要求について
7. 平成21年度事業報告について
8. 平成19年度及び平成20年度附属図書館年次報告について
9. その他
 - ・ 市場化テストと大学図書館業務について
 - ・ 電子ジャーナルの整備について

22. 6. 4 平成22年度第2回附属図書館運営会議

■協議事項

1. 第一期中期目標期間の評価結果確定に係る達成状況報告書の作成について
2. 平成21年度事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について
3. 附属図書館本館利用規則の改正について
4. 学術情報戦略会議の設置についての改正について
5. 平成22年度附属図書館関連委員会構成（案）について
6. 平成22年度附属図書館予算（案）について
7. 平成22年度附属図書館資料費配分（案）について
8. 平成22年度Scopusの経費負担（案）について

議

て

■報告事項

1. 国立大学図書館協会理事会について
2. 平成22年度外国雑誌センター館会議について
3. 平成22年度第2回学術情報整備検討委員会について
4. 附属図書館創立百周年記念事業について
5. その他
 - ・ 東北大学機関リポジトリ (TOUR) の更新について
 - ・ 大学図書館ランキング

22. 4. 27 平成22年度第1回附属図書館商議会

■協議事項

1. 平成22年度附属図書館会議等年間計画について
2. 商議会の当面の検討事項（案）について

■報告事項

1. 第41回国立大学図書館協会東北地区協会総会について
2. 平成22年度第1回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会（合同会議）について
3. 井上プラン2007（2010年度改訂版）について
4. 平成22年度全学的基盤経費について
5. 平成22年度総長裁量経費要求について
6. 平成23年度概算要求について
7. 平成21年度事業報告について
8. 平成19年度及び平成20年度附属図書館年次報告について
9. その他
 - ・ 市場化テストと大学図書館業務について
 - ・ 電子ジャーナルの整備について

22.6. 11 平成 22 年度第 2 回附属図書館商議会

■協議事項

1. 第一期中期目標期間の評価結果確定に係る達成状況報告書の作成について
2. 平成 21 年度事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について
3. 附属図書館本館利用規則の改正について
4. 学術情報戦略会議の設置についての改正について
5. 平成 22 年度 Scopus の経費負担（案）について

■報告事項

1. 平成 22 年度附属図書館関連委員会構成について

2. 国立大学図書館協会理事会について
3. 平成 22 年度外国雑誌センター館会議について
4. 平成 22 年度第 2 回学術情報整備検討委員会について
5. 平成 22 年度附属図書館予算（案）について
6. 平成 22 年度附属図書館資料費配分（案）について
7. 附属図書館創立百周年記念事業について
8. その他
 - ・ 東北大学機関リポジトリ（TOUR）の更新について
 - ・ 大学図書館ランキング

編 集 後 記

今年最大のイベント、サッカーファンの方には 4 年の 1 度のワールドカップ。世界中が一節によるとオリンピックより盛り上がるイベントだと言われています。

普段サッカーを見ない方も、夜遅く、また明け方までテレビにかじりつき眠い目をこすりながら、一次リーグを突破した時は、思わず「ヤッター」と叫んでしまう熱狂振りでした。ワールドカップ本番前の練習試合の成績が思わしくなかったのに反比例しての快挙に日本中のサッカーをよく知らない方々も、選手の活躍に一喜一憂したことが想像されます。

こういうときに、国を代表して闘っている姿にみんながひとつになって応援する。日本が熱く燃えた 3 週間でした。

この後、熱くなるのは、ワールドカップ程ではないにしても「甲子園で行われる高校野球」高校生の清々しいプレー、最後まであきらめない精神、私達が遠くに忘れてきたものを思い起こさせるようなそんなひたむきのプレーに応援を送りましょう。

ところで、附属図書館も歴史を積み重ね、来年 2011 年が創立百周年となります。

現在、百周年記念事業WGを設置し、種々の企画を練っているところです。

記念事業については、今後皆様に順次お知らせしますので楽しみにお待ちください。



東北大学附属図書館報「木這子」第 35 巻第 1 号（通号 130 号）発行日 平成 22 年 6 月 30 日

発行人 片山 俊治 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

電話 022-795-5911 FAX 022-795-5909

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>